

琵琶朗読劇

平家物語

抄録

誰もが知っているのに、
誰もが知らない平家物語が
いま壇ノ浦で鮮やかに蘇る。

波の下 の都

安徳天皇を祀る

於:赤間神宮 龍宮殿

2023年11月19日(日)

昼回 13:30 ~ 夕回 16:30 ~

開場は各回30分前 公演時間は約90分予定

祇園精舎の鐘の声、
諸行無常の響きあり。



詳細・ご予約



もれなく赤間神宮御朱印付

一般 前売り 3,500円 当日 4,000円

高校生以下 前売り 2,500円 当日 3,000円

※未就学児は入場できません
※前売り完売の場合は、当日券の発売はありません

オンライン 2,000円 見逃し配信 2週間付



赤間神宮 〒750-0003 山口県下関市阿弥陀寺町4-1

主催: 関門時間旅行事務局 共催: 赤間神宮 企画・制作: トミタプロデュース
協力: 赤間神宮龍宮殿 関門汽船 平家茶屋 ZATTA ZISSE 理論社



関門時間旅行
海峡都市で、会いましょう。



「波の下都」は、平家物語の最後の巻「灌頂巻(かんじょうのまき)」を下敷きにしたオリジナル作品です。軍記物と言われる平家物語ですが、権力争いに翻弄される弱者の想いに視点を移し、永遠に繰り返される“人の業”をめぐる宿命に想いを馳せれば、古典であると同時に普遍のテーマの物語でもありました。

そこで、安徳帝の母・徳子目録の物語に書き換え、江原千花さん、高木青鳳さんという得難いキャストと一緒に作ったのが この琵琶朗読劇「波の下都」です。

関門/下関+門司 には壇ノ浦をはじめ「平家物語ゆかりの地」がたくさんあります。これを機会に、800年の時を超えて、この地に起きた出来事や確かにそこにいた人々に想いを馳せてめぐっていただけたら幸いです。

「波の下都」 作・演出・制作 富田 剛史
関門時間旅行主宰/トミタプロデュース(株)

赤間神宮 御祭神 第81代 安徳天皇



関門海峡を臨んで建つ赤間神宮は、壇ノ浦の戦いで関門海峡に沈んだ安徳天皇を祀る神社で、元々は阿弥陀寺として創建されました。江戸時代まで長きに渡りお寺でご供養されてきましたが、明治に入り廃仏毀釈の流れで神社へと改められました。

昭和33年には、龍宮城を模した「水天門」も完成し、今や国の有形文化財にも指定され、名実ともに下関のシンボルとなっています。

また、水天門に向かい左手には安徳天皇阿弥陀寺御陵があり、宮内庁の管轄の非公開エリアなので中には入れませんが門前でお詣りできます。境内には「平家一門の墓」や耳なし芳一像を祀る「芳一堂」もあり、宝物殿では重要文化財となっている平家物語の長門本をはじめ、数々の絵巻や安徳天皇・平家一門の肖像、琵琶などが展示されており、平家物語ファンにはたまらない宝庫です。

そんな赤間神宮境内で「波の下都」を御覧いただくのは特別な時間です。



江原千花 えはら ちか／語り

1995年、下関市出身。女優・ダンサー・モデル。下関リーディングの会 代表。梅光学院高等学校卒業後、納得できる役を丁寧に演じたいとフリーランスで女優活動を続けている。

東京都調布せんがわ劇場 音楽劇「橋を渡る」主演

中部少年学院70周年記念映像「70年の軌跡」ナレーション

萩市松陰神社にて熊谷美術館主催、中村麻美講演会「伝えたい日本の心」朗読

山梨県立コラニー文化ホール生演奏音楽劇「ヤマガヒ〜とうとう〜」出演

木暮実千代生誕百年記念市民劇「オトン」木暮実千代役

2019年2月初の自主公演、二人芝居「父と暮せば」(作：井上ひさし)を下関で上演

2020年12月自主公演、岸田國士作「モノロオグ」を無観客で上演 インターネットライブ放送

2011年 第43回ミス日本コンテストにて、2011年度準ミス日本

2011年「父がいなくなった時」で、第2回 北九州市子どもノンフィクション文学賞 大賞

2016年 ダイワロイアルホテルズ2016イメージモデル

高木青鳳 たかぎ せいほう／琵琶と謡い

福岡市出身。嶺南流筑前琵琶おとり座・主宰。日本琵琶楽協会会員。

2005年より、筑前琵琶を故・青山旭子に師事。赤間神宮「耳なし芳一まつり」など、神社仏閣での奉納演奏をはじめ、各種ステージ・商業施設での演奏など幅広く活動中。古典曲を大切にしながら「初めての人にも楽しく“伝わる”琵琶」を模索して作詞・作曲も手掛け、これまでの琵琶にはないコミカルな曲調や分かりやすい曲展開に定評がある。

オリジナル作品に『鯛の婿入り』『鴨越の逆落し』『十二支のはなし』『天岩戸』など。

2015年 NHK邦楽オーディション合格。

2017年「琵琶楽コンクール」にて秀入受賞。

2016年・2018年「くまもと全国邦楽コンクール」にて奨励賞を受賞。

2018年 第55回「日本琵琶楽コンクール」にて第1位受賞。文部科学大臣賞、日本放送協会会長賞、

日本琵琶楽協会会長賞、辻靖剛賞、鶴田錦史賞、石田琵琶店賞を同時受賞。

